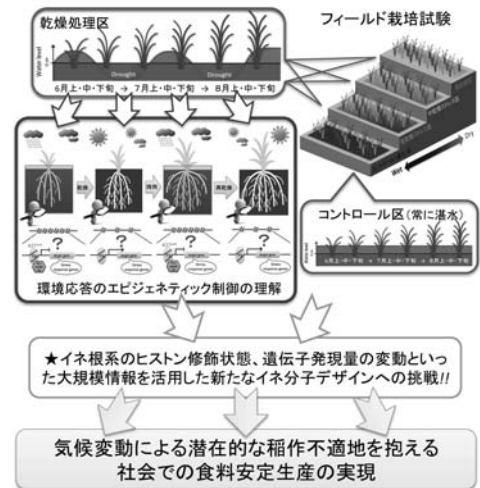


## JST戦略的創造研究推進事業「さきがけ」の新規採択

2015年度（第2期）のさきがけ「フィールドにおける植物の生命現象の制御に向けた次世代基盤技術の創出」研究領域に「土壌水分変動適応型エピジェネティック情報を捉えたイネの分子デザイン」が採択となり、本年12月1日よりスタートを切りました。本研究課題では、気候変動時代の食料安定確保を目標に、卓越した基礎科学の追求によるイネの次世代品種改良技術の開発を目指します。2011年6月に発行しました「ICCAE news No. 19」にて、学術誌「農学国際協力」の発刊にあたり、本誌は「農学における最先端研究をいかに国際的に展開させるか、またそれを世界的な問題の解決のためにどう用いていくかを考えます。これによって、最先端研究と国際的な課題の把握が同居しているような人材を育成することができれば、望外の喜びです。」と抱負が述べられています。しかしながら、同一人物の中にこの二つを“同居”させるのは至難の業です。そのため、「開発途上国における農学領域の諸問題の解決に貢献する」ことをミッションに掲げたICCAEの教員である私自身が、卓越した基礎科学からトップイノベーションの源を生み出す「さきがけ」事業を通して最先端農学研究者として成長することで、“同居”した人物像の一つの模範を示せるよう努力していきたいと考えています。（犬飼義明）



## 名古屋大学アジアン・サテライト・キャンパス:カンボジアキャンパス入学式

名古屋大学カンボジアサテライトキャンパスの第2回目の入学式が、10月8日(木)にプノンペン市内にあるカンボジア日本人材開発センター(CJCC)において行われ、名古屋大学から松尾総長、渡辺理事、磯田アジアサテライトキャンパス学院長、各研究科の関係教職員が出席し、農国センターからも山内と伊藤が出席しました。カンボジアキャンパスでは、農林水産省、司法省、公務員省、国立エイズ対策機構、民主的開発委員会から各1名の計5名を、第2期生として迎えました。ICCAEが協力講座となっている生命農学研究科に所属する学生は、農林水産省職員として王立農業大学の副学長を務めるTY Channa氏が第2期生として入学したことで計3名となりました。

入学式には、学生の勤務先を含むカンボジア国の6省庁の長官や副長官も出席し、盛大に入学を祝いました。また、同日の夕刻には、ヒマワリホテルにて名古屋大学同窓会が開催され、100名を超えるカンボジア人の名古屋大学卒業生が集い、新入生を祝うと同時に同窓生同士の結束を深めました。

入学式の翌日には、松尾総長をはじめとする名古屋大学関係者が王立農業大学(RUA)を訪問し、RUA学長よりICCAEとの共同研究から始まった名古屋大学との連携の歴史について説明を受けた後に、サテライトキャンパス事業の視察を行いました。生命農学研究科からは、乳牛生産を通じた各種実習と生乳生産を目指すプロジェクトの視察・説明がなされ、農国センターからはJICA草の根技術協力事業や科学研究費補助金にて実施している食品加工に関する事業について紹介しました。休憩時には、両事業より生乳を用いたアイスクリームやシャーベット、米蒸留酒、果実酒、フルーツ・野菜を用いたジュース等の試食会が行われ、活動の成果を肌で感じていただきました。初めてのカンボジア訪問となった松尾総長をはじめ、これまでご支援頂いてきた理事や各研究科の教職員の方々に、ICCAEが現地で積み重ねてきた人材育成を含む実践的研究の成果について広く知っていただくと同時に、様々な助言を頂く機会となりました。（伊藤香純）